

持続的な活動に向けた取り組み

- COC事業を開始した2013年度より、ウェブサイトの開設や大学広報誌でのCOC特集などの情報発信を継続している。また、イベントの開催を通して活動成果を地域に還元するとともに、教員・学生と地域の自治体・企業・住民との交流を促し、更なる活動の創発を図っている。

COC事業キックオフイベント 2013年度

2014年1月25日(土)豊洲キャンパス
参加人数約230名

第19回東京ベイエリア産学官連携シンポジウム「木の魅力を伝える」と題し、地域の住環境改善を目指すプロジェクトのテーマを取り上げ、東京大学名誉教授内田祥哉氏、建築家今里隆氏による講演とパネルディスカッションを行った。



芝浦ハッケン展 2014年度

2014年9月9日(火)豊洲キャンパス
参加人数約250名

日立製作所様・ユーグレナ様による基調講演、岡本硝子様・モリタ東京製作所様による産学連携の事例紹介、芝浦工業大学デザイン工学部の安齋教授による3Dプリンターについての技術セミナー、そして約70の研究室による研究紹介・技術相談と、盛りだくさんのプログラムを用意し、大盛況のうちにイベントを終了することができた。



第1回 COC学生成果報告会 2014年度

2015年3月16日(月)大宮キャンパス
参加人数約90人

大宮キャンパスにて開催した大宮産学官連携研究交流会に合わせ、併設会場にてCOC学生成果報告会を同時開催した。2014年度に活動した、「まちづくり」「ものづくり」の11プロジェクトから、各プロジェクトの代表2名を選考し、1分間のショットガン・プレゼンテーションとポスターセッションによる成果報告を実施。来場者の投票による採点に基づき、金賞1組・銀賞2組・銅賞3組を表彰した。ご来場の方々から、この成果報告会に対する高い評価をいただいた。

地域共創シンポジウム 2015年度

2015年10月10日(土)豊洲キャンパス
参加人数約260人

「大学とまちづくり・ものづくり」として、江東区山崎区長の講演、パネルディスカッション、COC全19プロジェクトのポスターセッションを行った。また、COC関連教員によるベイエリアおもてなしロボット研究会セミナー、電界誘起マイクロバブルメス応用技術研究会を同時開催した。

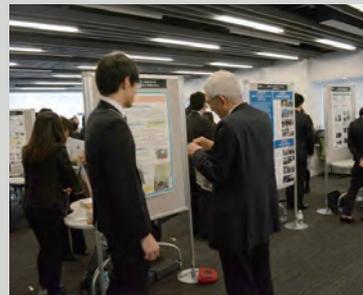


第2回 COC学生成果報告会 2015年度

2016年3月17日(木)大宮キャンパス
参加人数約110人

2014年度に続き、第2回COC学生成果報告会を大宮キャンパスにて開催した。今回はショットガンプレゼンテーションを90秒間に延長。

来場者の投票による採点に基づき、19プロジェクトの中から、金賞1組・銀賞3組・銅賞5組を表彰した。昨年以上に盛況であった。



- これまでのCOC事業推進を通して、事業年度終了後も持続的な活動を展開するためには、
 - ①地域との連携を強く、深くする
 - ②他大学との連携を進める
 - ③学内の「まちづくり」「ものづくり」を連携させる
 これらの要素が重要になる。
 本学では、持続可能な学内外との産学・地域連携体制の構築に取り組んでいる。

学内コンソーシアム展開

- 持続性のある活動を展開するために、学内では研究室間の連携によるコンソーシアムを形成し、共通のテーマに基づいた定常的な教育研究活動の取り組みが始まっている。ロボット技術・ナノテクノロジー・自動運転・次世代モビリティに関連した研究室が集まり、それぞれコンソーシアムを形成している。

COCプロジェクトに関連したコンソーシアム活動

- ロボティクスコンソーシアム
- マイクロナノ・イノベーションコンソーシアム
- 先進モビリティコンソーシアム



ロボティクス・コンソーシアムの
デモ風景

- これらのコンソーシアムでは、研究成果の情報発信としてのイベント参加、シンポジウムの開催、演習授業の中での地域志向教育の実施等の活動を行っている。

城東地域活性化推進協議会

- 城東地域では、後継者の育成や産業の空洞化といったものづくりの課題、防災対策や高齢者対策などまちづくりの課題を抱える一方、複数の理工系大学がキャンパスを開設し、新たな産業・学術地域への変革を遂げるポテンシャルを有している。
- 芝浦工業大学は、東京理科大学、東京電機大学、東京東信用金庫と連携し、城東地域の産業活性化に向けた検討を開始した。2014年度、2015年度とセミナーを行い、また、地域企業と共に、地域課題の解決に役立つ製品開発に向けた検討を開始している。

COC+への参画

- COC事業採択校である本学は、宇都宮大学と連携し、2016年から始まる「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に応募し採択された。これまでの本学のCOC事業の活動を持続的なものとするための機会となり、相乗効果も期待できる取り組みとなる。

●COC+(プラス)への対応

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業

COC+大学と事業協働地域の機関が協働し、地域が求める人材を育成し、若年層の地元定着を推進

地方の大学...地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上に関する計画を策定

東京等の大学...地方の大学や地方公共団体・中小企業等と協働

輝くとちぎをリードする人材育成地元定着推進事業

育成施策

- ・とちぎの魅力・情報を積極的に提供する教育プログラムの提供
- ・とちぎ学プログラム修了証の授与
- ・とちぎを理解し、とちぎに貢献できる人材を育成
- ・農工融合イノベーションおよびグローバル化に対応
- ・事業協働機関が参加する合同の講義や演習(ネットワーク配備)
- ・とちぎキャリア合宿、ワークショップ、セミナー、シンポジウムの開催
- ・地元自治体、産業界、団体からの実務家教員の派遣

出口施策

- ・オールとちぎ産官学金連携の「雇用イノベーション」
- ・大学・高専との産学連携・共同研究により産用基礎を構築させ、地元雇用創出
- ・奨学金制度の整備
- ・Jターン、Uターン、Iターンの受け入れ体制の組織化

入り口施策

高大連携事業と連携した県内優秀人材の入学促進
JST次世代人材育成事業 グローバルサイエンスキャンパス

首都圏参加校との講義・キャリア教育の連携



先進モビリティコンソーシアム技術マップ



城東地域の大学・企業による
製品開発の検討